

日本大学理工学部数学科教育法Ⅲ

2018年2月8日(木)

担当 三川 一夫

東京女子学園の小林先生の授業を拝見させていただきました。

どんな点が君たちが学んできた数学の授業と違うのか、忌憚のない感想を書いて下さい。

学科名 数学科

学籍番号

氏名

私にこれまで学んできた数学と大きく違っていたことは、「数学を使う」という点です。私は今まで、数学を「計算として使う」授業で授けてきました。(それは文字通り、演習問題や教科書の例題等、与えられた問題で解くという)言わば受験のための数学でした。しかし、今日の小林先生の授業では、今までの、これまで数学はどの様に活用してきたか、という大きな気づきを見ました。実際に今日の授業では、300km離れた位置から富士山は見えない? という課題で、生徒一人一人の意見と関連、これをどうも拾い、クラス全体で共有していく、そういうことで、「どう様にした方がいいか求む?」という「生徒主体の数学」が上手く誘導におられました。この「生徒主体の数学」こそが、本来学ぶべき数学であったと痛感しました。「計算として使う」数学では、「教科書主体の数学」となり、クラス全体で共有していくことは難しいと思います。クラス全体で共有していくには、「この人はこういう考えだから、他の人はどう?」という、違う人の意見がすぐに聞くことと可能であるため、おもしろく数学を学ぶことが出来ると感じました。私も教師になる際は、今までの「受験のための数学」ではなく、小林先生のような「生徒主体の数学」の授業を展開していきたいと強く思いました。もちろん「受験のための数学」も大切ではあると思いますが(定期試験等において)、それ以上に、「数学を学ぶ楽しさ」や、「数学を使う楽しさ」を伝えられるような教師になりたいです。素晴らしい授業でありがとうございました。